

# 山口県 令和元年度完了報告書

## 1. 調査研究概要

本県では、令和元年度から、中学校区内の学校を継続的に訪問し、カリキュラム・マネジメントに関する指導・助言を専門的に行う「社会に開かれた教育課程推進リーダー(教頭職)」(以下「推進リーダー」という。)を配置することで、学校と家庭・地域の連携・協働による教育活動を推進し、社会に開かれた教育課程の実現を支援している。今年度は3人の推進リーダーを県内の小学校1校、中学校2校に配置している。

そこで、本推進リーダーの配置校を実践校として指定し、それぞれの地域や児童生徒の実態に応じた実践研究テーマに基づいて研究を進めてきた。

その研究成果を、「カリキュラム・マネジメントの手引き」としてまとめ、県内の小・中学校に普及することはもとより、全国各地の新学習指導要領に基づいたカリキュラム・マネジメントの充実の一助となることをめざす。

### (実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
5月	県指導主事による実践校訪問
6月	県指導主事による実践校訪問
7月	県主催研修会にて授業公開(上宇部中) 県指導主事による実践校訪問 第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 ・研究内容、計画、成果検証方法等の検討、確認等 ・手引きの内容の検討 アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット2019視察【上宇部中】
8月	美祢市小中教務主任研修会指導講話【平川中 藤田教頭】
9月	
10月	教育課程研究指定校事業(カリキュラム・マネジメント)発表会参加(徳山小)【東小 末次教頭, 平川中 藤田教頭】
11月	主催研修会にて実践発表(宇部市文化会館)【上宇部中 吉松教頭】 県主催研修会にて実践発表(光市民ホール)【東小 末次教頭】 公開授業研修会(東小) 県指導主事による実践校訪問 第2回カリキュラム・マネジメント検討会議 ・講話「『社会に開かれた教育課程』を実現するためのカリキュラム・マネジメントについて」 ・研究の進捗状況等の情報共有、指導助言等 ・手引きに関する調整等

12月	2学期末アンケート実施(児童生徒, 教職員, 学校運営協議会委員等) 校区内地域等関係者協議会 校内研修会事前打ち合わせ・県指導主事による実践校訪問(上宇部中)
1月	県指導主事による実践校訪問(東小) 県指導主事による実践校訪問(平川中) 京都市立桃山中学校授業公開視察(京都)【東小, 平川中, 上宇部中】
2月	東京学芸大学附属大泉小学校授業公開視察(東京)【東小】 国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会(小中カリキュラム・マネジメント分科会)参加【各教頭, 県担当】 世田谷区立奥沢小学校授業公開視察【東小】 第3回カリキュラム・マネジメント検討会議 ・研究の成果, 課題の検証 ・次年度に向けての取組について(手引き, 研究発表会) ・手引き(1年次)の作成 実践校校内研修会(上宇部中) 福岡教育大学附属福岡小学校授業公開視察【東小】<新型コロナウイルス感染症防止のため中止>
3月	今年度の取組の成果と課題の整理 手引き(1年次)のWeb公開

## 2. 調査研究の内容

### 実践校【岩国市立東小学校】

#### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等(目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など)の設定及び実現に向けた研究  
「小中一貫教育の推進に向けた組織づくりとPDCAサイクルの構築」  
「キャリア教育を柱とした9年間を見通したカリキュラムの編成」

#### (2) 調査研究の内容

##### ア 組織と役割の明確化

カリキュラム・マネジメントを全教職員体制で行っていくために, 既存の組織の役割を明確にした。併せて, 実施する時期や各部会で行うことも明確にした。

##### イ キャリア教育を柱とした9年間を見通したカリキュラムの編成

育てたい資質・能力を育成するため, キャリア教育の資質・能力を意識して9年間を見通したカリキュラムの作成, 試行を行った。部会ごとに担当者同士が連携して作成, 検討を行い, 活用への意識付けを図った。

##### ウ 資質・能力の重点化と児童生徒への意識化

資質能力の重点化と児童生徒への意識化をめざして準備を進めた。

### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

<成果>

#### ア 組織と役割の明確化

全員が関わる意識の高揚を図るとともに、9年間を見通したカリキュラムを部会全員で作成し、その意図を共有することにつながった。部会長（各校の教頭）を中心に取組状況の把握、カリキュラムの試行、課題の把握等を行うことで部会内でPDCAサイクルが機能し、課題解決への方策を考えることができた。また、日頃の教育活動の実施の際に意識することができるようになった。

#### イ キャリア教育を柱とした9年間を見通したカリキュラムの編成

授業での活用を促すため、研修主任と連携し指導案にその内容や育てたい資質・能力を示すようにしたことで、日頃の教育活動の実施の際に意識することができるようになった。

<課題>

資質・能力の重点化と児童生徒への意識化について、キャリア教育を要とする資質・能力の重点化を図るため、教職員アンケートを実施した。結果を踏まえ、重点化の仕方について来年度考えていく必要がある。

また、育てたい資質・能力をさらに具体的に示し、児童生徒にも分かる表現で指導していくために、資質・能力の解説を作成したい。

### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	部会との取組内容の確認（小中合同研修会）
6月	カリキュラムの作成，試行等（小中合同研修会）
7月	部会ごとの取組の進捗状況確認（小中合同研修会） 第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 ・研究内容，計画，成果検証方法等の検討，確認等 ・手引き内容の検討
8月	カリキュラムの作成，試行等
9月	カリキュラムの作成，試行等
10月	カリキュラムの作成，試行等
11月	公開授業研究会（小中合同）
12月	全教職員での反省，振り返り
1月	課題把握，今後の取組の共有
2月	全教職員の共通理解（小中合同研修会）
3月	来年度の方向性の確認

## 実践校【山口市立平川中学校】

### (1) 研究テーマ

- ☑ b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究  
「言語能力の育成を軸としたカリキュラムの作成へ向けた取組」

### (2) 調査研究の内容

- ア 言語能力を育成するための活動の方向性を研究  
言語能力の育成のための3つの視点として、下記のように整理した。
  - 知的活動  
児童生徒の発達の段階に応じ、国語科を中核としつつ、全ての教科等での言語の運用を通じて、論理的思考力などの能力を育成する。
  - 感性・情緒等  
様々な事象に触れて（体験活動等で）感性を磨くことで、児童生徒の心情が豊かになり、美しい言葉や心のこもった言葉の交流が実現する。
  - コミュニケーション能力  
個々人が他者との対話を通して自己を表現し、考えを明確にし、あるいは他者を理解し、他者と意見を共有し、お互いの考えを深めていく。
- イ 言語能力を育成するために地域資源を活用する場面の設定  
学校が提案をして生徒と地域の方々が交流できる場面を設定した。

### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

#### <成果>

- イ 言語能力を育成するために地域資源を活用する場面の設定
  - あいさつ運動プロジェクト会議（平川地区あいさつ運動）  
学校の課題解決へ向けて生徒と地域の方々が話し合い、3 stepあいさつ運動の実施が決まった。
  - 地域参加型道徳授業  
道徳授業における班活動へ地域の方が加わることで、生徒は自分にはない視点からの意見との出会いにより学びが深まった。地域の方にも中学生の現状がよく分かれると好評だった。
  - 平川まつり体験型地域防災訓練  
地域のまつりに併せて、防災イベントを実施した。特に、防災熟議では、中学生・高校生・大学生・地域の大人が防災について語り合った。小学生KYT（危険予知トレーニング）教室では中学生が小学生へKYTの教材を使って防災について教えた。

#### <課題>

- カリキュラム・マネジメントについての校内研修の充実  
引き続き、新学習指導要領総則に関する研修やカリキュラム評価を活用した研修を行う時間の確保に努めることが必要である。
- 教育課程の核となる総合的な学習の時間の充実を図り、言語能力の育成をめざす。

- 取組の「見せる化」の工夫により，教職員や生徒はもとより，地域の方をはじめとする来校者に取組を知ってもらうことが大切である。
- 様々な教育活動が言語能力の育成につながるよう，教育課程の編成・見直しが必要である。

#### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	言語能力の育成についての研究
6月	地域参加型道徳授業開始（6・11・2月）
7月	あいさつプロジェクト会議実施
8月	小中合同研修会
9月	互見授業開始（毎週金曜日）
10月	文化祭表現活動・地域ブース
11月	平川まつり地域防災訓練実施
12月	年末地域行事ボランティア参加
1月	カリキュラム・マネジメント自己評価シート実施
2月	新学習指導要領の研修
3月	次年度の推進体制の検討

#### 実践校【宇部市立上宇部中学校】

##### (1) 研究テーマ

- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究  
「現代的諸課題に対応する資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントのあり方について」

##### (2) 調査研究の内容

- ア 教育課題の整理・焦点化  
生徒や地域の状況を知る（教職員，生徒との協議，地域の方との日々のコミュニケーション，全国学力・学習状況調査等の資料の活用）
- イ 教育目標の具体化・共有  
方向性を定め，共有する（校長，主任等との協議，職員会議での協議，共有，生徒会との協議，共有，学校運営協議会での協議，共有）
- ウ 計画  
重点的な取組を計画する（イと同様）

### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

<成果>

ア 地域と連携する取組の実践

イ コミュニティ・スクールを生かした授業の実践

<課題>

○ 教科指導とカリキュラム・マネジメントとの関連を教員一人ひとりがつかむこと

○ 育成をめざす資質・能力を生徒に分かりやすく示すこと

### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	研修職員会(新学習指導要領等) 学校運営協議会
6月	研修職員会(授業づくり) 管理職連携定例会(7, 9, 1, 2, 3月)
7月	臨採研授業公開 公開授業研究会 授業・コミュニティ・スクールアンケート(生徒) 県外研修会参加(教頭) 拡大学院校運営協議会
8月	小中合同研修・交流会 学校運営協議会
9月	研修職員会(研修会復命等)
10月	研修職員会(小学校授業参観)
11月	研修職員会(指導案検討等) 県主催研修会成果報告(教頭) 中学校見学・交流会
12月	公開授業研究会 授業・コミスクアンケート(生徒) 学校運営協議会 拡大学院校運営協議会
1月	研修職員会
2月	研修職員会(次年度カリキュラム) 県外研修会参加(教頭・教員) (カリキュラム・マネジメント関係) 市主催管理職研修会成果等報告(教頭) 学校運営協議会 拡大学院校運営協議会
3月	研修職員会 授業・コミュニティ・スクールアンケート(生徒・教員)

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

- 学校の基本方針の一つとして、育成をめざす資質・能力の明示の必要性についての共通理解
- カリキュラム・マネジメントの推進には、コミュニティ・スクールの仕組みを活用することが有効であることの再認識
- 地域の教育資源の活用の推進



各校における「学校・地域連携カリキュラム」の策定・見直し

#### 学校・地域連携カリキュラム（山口県の定義）

「社会に開かれた教育課程」の視点をもとに、学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したカリキュラム

《含まれる内容や項目の例》

- ・学校と地域が連携・協働した取組によって育成をめざす資質・能力
- ・学習活動の内容や時期，及び教育課程での位置付け
- ・保護者や地域の人々の参画や連携の内容及び時期

- 育成をめざす資質・能力を踏まえた教育課程の見直し，改善の実施（リノベーション）
- 学校運営協議会との連携
- 「学校・地域連携カリキュラム」の見直しへの児童生徒の関わり

県内の小・中学校において，児童生徒が「学校・地域連携カリキュラム」の策定に関わった学校 小学校：2割程度 中学校：3割程度

（「令和元年度山口県公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査」より）

- 本研究の評価のあり方
- 業務改善の視点を踏まえた取組の見直し

<改善方策>

- ◇ 学校評価の項目の見直し，検討
- ◇ カリキュラム・マネジメントの取組の内容とスケジュールの可視化
- ◇ 校内研修の参観を踏まえた指導・助言

### 4. 参考資料

- ①「カリキュラム・マネジメントの手引き2019」
- ②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料